

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2019年11月）

目 次

内 政

- ◆ 2020年国会総選挙実施日の発表 2
- ◆ ライチャーク外相の2020年国会総選挙後の去就 2
- ◆ ビロード革命30周年 2
- ◆ 世論調査の「選挙モラトリアム」期間延長法案の再可決 3
- ◆ 政党支持率調査結果 4

外 政

- ◆ ラシ副首相の訪中 4
- ◆ チャプトヴァー大統領のベルリンの壁崩壊30周年記念式典出席 5

社 会

- ◆ ニトラ市近郊における路線バス事故 5

経 済

- ◆ トルコ・ストリーム経由によるスロバキアへのロシア産ガス輸送計画 6
- ◆ ブラチスラバにおける中欧エネルギー会議の実施 6

別添：主要経済指標

※ 本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆2020年国会総選挙実施日の発表（5日付プラウダ紙）

4日、ダンコ国会議長は、次期国会総選挙を2020年2月29日に実施する旨を発表した。選挙運動は5日より公式に始めることができ、投票日の48時間前にあたる来年2月26日まで続けることができる。各政党は、最大300万ユーロまで選挙運動に費やすことができるが、同経費の領収書の公開が義務づけられている。

社会学者のハウリーク氏は、選挙戦の展望について、「野党は、選挙前に互いの政党を攻撃しない旨協定を結ぼうとしている。他方で、新党を含む数多くの野党が、一定数の有権者を奪い合うことになるため、野党間の争いも、投票日が近づくにつれ熾烈になっていくと思われる」と述べた。また政治学者のマロヴァー氏は、「各政党は、自党の公約を有権者に浸透させることができているので、LGBTIや移民問題といったセンシティブなテーマを持ち出して、有権者に訴えかけていく政党も出てくるとと思われる」と指摘した。

◆ライチャーク外相の2020年国会総選挙後の去就（7日付プラウダ紙）

6日、ライチャーク外務・欧州問題相は「2020年2月に行われる国会総選挙に立候補しない。また、次期政権で閣僚ポストに就くことはない。政界に残りたいのであれば、（2019年3月の）大統領選挙に立候補していただろう」と述べた。ライチャーク外相は、「今後も外交の世界で活動していくことになる」と述べつつ、詳細について明らかにしなかった。

ライチャーク外相は、与党第1党「方向-社会民主主義（Smer-SD）」の指名閣僚であるが、Smer-SDの党员ではない。政治学者のバラネク氏は、「ライチャーク外相は信頼感のある人物であり、次期総選挙に立候補しないのであれば、Smer-SDにとって損失となる」と述べた。

昨年12月、ライチャーク外相は、国連「移住グローバルコンパクト（GCM）」会合へのスロバキア代表団への派遣を巡りSmer-SDと対立し、辞意を表明したが、後に撤回した。

◆ビロード革命30周年

【大統領府プレスリリース（16～17日付）】

16日、チャプトヴァー大統領及びゼマン・チェコ大統領は、ブラチスラバのコメニウス大学を訪れ、1989年11月16日のスロバキア人学生による抗議デモの記念碑に献花した。

同日、チャプトヴァー大統領は、ブラチスラバのスロバキア国立劇場で行われたビロード革命30周年を記念するコンサートに出席した。チャプトヴァー

大統領は演説の中で、国家に対する信頼の危機、司法制度における不備、ビジネスと政治の結びつきに言及するとともに、「変化によって自動的に発展がもたらされると思っている人は、失望を味わうことになる。民主主義は機会であり、成功を保証するものではない」と述べた。

【首相府プレスリリース（１７日付）】

１７日午前、ペレグリニ首相はプラハを訪問し、V４各国首相及びショイブレ独連邦議会議長とともに、ビロード革命３０周年記念式典に出席した。ペレグリニ首相は、「V４諸国とドイツは、共産主義政権の打倒と、自由及び民主主義のための条件形成という、共通の経験を有している」と述べるとともに、「１９８９年の出来事により、スロバキアとチェコは欧州に回帰することができた。両国は、EUの経済成長を牽引しており、EU財政の安定性を脅かしたことはない」と言及した。

１７日午後、ペレグリニ首相、バビシュ・チェコ首相、オルバーン・ハンガリー首相及びチャプトヴィチ・ポーランド外相は、ブラチスラバ近郊デヴィーン城において、共産主義時代の犠牲者を追悼した。

ペレグリニ首相は、ブラチスラバのスロバキア国立劇場で行われたビロード革命３０周年記念式典に出席し、「世界は再び変化しつつある。その変化は、一見すると見えにくいものであるが、３０年前の変化よりも重要なものかもしれない。我々は、高齢化、移民、経済の失速、気候変動、国際関係における新秩序形成の動きを目の当たりにしている。新技術やITの時代が到来しているが、それらは人間のコントロール下に置かなければならない」と述べた。

◆世論調査の「選挙モラトリアム」期間延長法案の再可決（２７日付スメ紙）

２６日、スロバキア国会は、選挙に関する世論調査の公表が禁じられる「選挙モラトリアム」の期間を、選挙前の１４日間から５０日間に延長する法案を再可決した。同法案は、チャプトヴァー大統領が署名を拒否したため、国会に差し戻されていた。与党第１党「方向-社会民主主義（Smer-SD）」、同第２党「スロバキア国民党（SNS）」、極右政党「我々のスロバキア（LSNS）」の全議員が同法案に改めて賛成した。

チャプトヴァー大統領は国会での採決前に、「同法案が再可決される場合、憲法裁判所に訴訟を提起する」と述べていた。大統領府は、「憲法裁判所に対して、同法案の合憲性の調査を提起するとともに、同法案の効力を一時的に停止させるよう要請する予定である」とコメントした。

ペレグリニ首相（Smer-SD副党首）及びライチャーク外務・欧州問題相（Smer-SD選出）は、５０日間の選挙モラトリアムは欧州では前例がない旨指摘し、同法案を批判している。レミショヴァー国会議員（国会では無所属。た

だし、新党Za ludi副党首)も、「同法案は市民の知る権利を侵害している」と述べている。

◆政党支持率調査結果（27日）

世論調査機関AKOによる11月の政党支持率調査の結果は以下のとおり。キスカ前大統領の新党Za ludiが、PS/Spoluの支持率を初めて追い抜き、野党の中で最も支持率が高い政党となった。

政党	AKO	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	18.4%	28.3%
Za ludi（人々のために）	12.5%	—
PS/Spolu（プログレッシブ・スロバキア／共に）	12.4%	—
LSNS（我々のスロバキア）	10.4%	8.0%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	7.6%	8.6%
Sme rodina（我々は家族）	7.1%	6.6%
KDH（キリスト教民主運動）	6.4%	4.9%
SNS（スロバキア国民党）	6.4%	8.6%
SaS（自由と連帯）	6.3%	12.1%

外 政

◆ラシ副首相の訪中（5～10日）

【上海訪問】

5日、ラシ副首相は、中国の上海で行われた国際輸入博覧会（C I I E）の開幕式に出席した。同博覧会には、習近平・中国国家主席、マクロン仏大統領の他、V4諸国からはヴォンドラーチェク・チェコ下院議長及びシーヤールト・ハンガリー外務貿易相が出席した。スロバキアは自国のパビリオンを出展しなかったが、空飛ぶ自動車（aeromobil）の開発に関わっているKlein社と、栄養補助食品を生産しているNeodual社が同博覧会に参加し、自社の製品を紹介した。ラシ副首相は、「スロバキアのような小国から2社の企業が出展したことを嬉しく思う」と述べるとともに、約20名のスロバキア企業関係者が、新たなビジネス契約を結ぶために同博覧会を訪問している旨付言した。

【北京訪問】

8日、ラシ副首相は、王志剛・科学技術部部長と会談を行い、ITの発展及び産業のロボット化等について話し合った。ラシ副首相は、「中国は、新技術を受容し、人々の生活に応用し続けている。スロバキアは、自国のイノベーションを中国に提供する機会を逸してはならない」と述べるとともに、空飛ぶ自

自動車やブロックチェーンの分野でスロバキア独自の技術を有している旨付言した。スロバキアは中国と協力して、ブロックチェーン技術に関する中核的研究機関（Center of Excellence）を北京に設立する予定であり、スロバキア企業Decent社は中国側との協力に向けた覚書への署名を行う見込みである。

【滄州訪問】

10日、ラシ副首相は、河北省滄州を訪問し、スロバキア・中国外交関係樹立70周年記念式典に出席した。河北省では、1956年にチェコスロバキア（当時）の支援により、「中国・チェコ・スロバキア友好農場」が開設された。ラシ副首相は、「中国語を勉強するスロバキアの若者が増えており、バンブー・ビストリツァのマチェイ・ベル大学では、国内3か所目の孔子学院が設立された」と述べた。またラシ副首相は「中国は、ユーロ導入国であり自動車産業が発達しているスロバキアとの経済協力に関心を示している」と述べた。

◆チャプトヴァー大統領のベルリンの壁崩壊30周年記念式典出席（9日）

9日、チャプトヴァー大統領は、シュタインマイヤー独大統領の招待に基づき、V4各国大統領とともに、ベルリンの壁崩壊30周年記念式典に出席した。チャプトヴァー大統領は、メルケル独首相とともに、ベルリンの壁跡に献花した。

チャプトヴァー大統領は、「ベルリンの壁崩壊は、一つの都市と一つの国家の分断解消のシンボルだけに留まらなかった。壁の崩壊は、ポーランドの自由選挙、ハンガリーの汎ヨーロッパ・ピクニック、チェコスロバキアのビロード革命とともに、自由と民主主義を希求する相互支援と連帯の熱狂的な物語を作り上げた」と述べた。

チャプトヴァー大統領は、「我々の中にある不信感の壁を壊すことも重要である。欧州において、西と東が分断されつつあるという声が頻繁に聞かれるようになっているが、先人達が30年前に成し遂げたように、協力と相互理解の姿勢を示すことが我々の義務である」と述べた。

社 会

◆ニトラ市近郊における路線バス事故（13日付TASR通信）

13日午後13時頃、ニトラ市近郊の幹線道路上で、ニトラ市と近郊自治体を結ぶ路線バスとトラックの衝突事故が発生し、子ども4人を含む12名の死亡が確認された他、17名が負傷し病院に搬送された。バスの乗客には、多数の中学・高校生が含まれていたと見られている。警察は、積載荷物を超過したトラックが対向車線にはみ出し、バスに衝突した可能性があると見て、捜査を

行っている。

事故発生後、サコヴァー内務相、カラウスカー保健相、エールシェーク交通・建設相、ガイドシュ国防相、ルビオヴァー教育相が現場に駆けつけた他、キプロス訪問中のペレグリニ首相は予定を切り上げて事故現場に向かった。スロバキアで10名以上が犠牲となる交通事故が発生したのは、2009年以来的ことである。

経 済

◆トルコ・ストリーム経由によるスロバキアへのロシア産ガス輸送計画（4日付経済新聞）

ロシア産ガスがトルコ経由でスロバキアに流れてくるようになるかもしれない。ブルガリア、ルーマニア、ハンガリー及びスロバキアを結ぶ計画中のパイプライン「イースtring（Eastring）」は、「トルコ・ストリーム」に接続することになると見込まれている。スロバキアのガス輸送企業「Eustream」のニュコヴィチ・ジェネラル・マネージャーは、当紙のインタビューに対し、「トルコ側と、ガスの供給量について協議している。ウクライナ経由のガス輸送量が減少する場合でも、（スロバキアがトルコ・ストリームと接続されることで、）スロバキアを通過するガスの輸送量はある程度確保されることになる」と述べた。

ニュコヴィチ氏は、ノルドストリーム2（NS2）建設等の影響について、「欧州におけるガス消費量は緩やかに増加しているが、欧州内でのガス採掘量は減少しているため、露産ガスの需要は減少していない。また、露産ガスは価格競争力がある。ロシアは、NS2やトルコ・ストリームの建設後も、欧州に十分な量のガスを輸送し続けるために、ウクライナを経由するパイプラインを使い続ける必要があるだろう」と述べた。

◆ブラチスラバにおける中欧エネルギー会議の実施（18日）

ジガ経済相は、ブラチスラバで行われた第13回中欧エネルギー会議（CEEC）に出席した。CEECの目的は、EU及び中欧のエネルギー政策に関する議論の場を提供し、より良い解決策を模索することである。

ジガ経財相は、「原子力のおかげで、スロバキアは中欧において、発電の際の二酸化炭素排出量が最も低い国の一つである。太陽光、風力、水力及び原子力等の全ての低炭素資源が、エネルギー・ミックスにおいて正当な地位を占めていることを、EU全体で認めるべきである。各主権国家は、地理的、社会的、経済的な特徴を考慮に入れ、相応しい低炭素資源を選ぶ権利を有している」と述べた。

ジガ経済相は、ロシアからウクライナへのガス輸送契約が今年末に失効することについて、「2020年1月以降、ウクライナ経由のガス輸送が停止する一定のリスクがある」と述べつつ、2009年のウクライナ・ガス危機以降、新パイプラインの建設、ガス逆輸送の保証、備蓄量の引き上げ等、抜本的な対策が行われてきた旨言及した。

(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

